

第3回氷見市液状化対策検討委員会 議事要旨

- I. 日時 2024年02月19日(水) 10:00~12:30
- II. 場所 氷見市役所2階全員協議会室
- III. 出席者 【委員】三村委員長、安田副委員長、上田委員、兵動委員(欠)
【オブザーバー】奥山オブザーバー、川上オブザーバー
【事務局】菊地市長、神代部長、宮下課長、草山主幹
- IV. 配布資料 ・本日の次第、座席表、委員名簿
・資料-1 第3回委員会資料
・資料-2 第2回委員会議事録(案)
- V. 議事次第
1. 調査結果及び資料の説明
 2. 委員による質疑
- VI. 委員による質疑、応答(●:委員、◆:事務局)
- 余川川や上庄川が砂を沿岸に運び、液状化の可能性がある地域に砂堆を形成したと考えられる。旧河道の流れによって自然に砂堆ができた可能性があるのではないかと。
 - ◆ この砂堆は、高岡市から広範囲で形成されており、供給源は氷見市より南である。旧河道の形成は明治時代よりも前と考えられる。旧河道は徐々に変動してきたもので、突然動いたわけではない。地形の標高図を見ると、水田の区割りに旧河道が含まれており、大まかに北側にももう1本旧河道が確認できる。河谷浸食崖が部分的に読み取れるため、河道が徐々に変動し現在の形になったと考えられる。余川川は元々南に流れたかったが、砂堆に阻まれて北に曲がった可能性がある。他の河川も同様に砂堆に影響されて流路が変わっている。
 - ◆ 液状化判定に用いる地震外力(M7.6/260gal 設定)の妥当性については、国交省ガイドラインに沿って検討。今次災害の観測地震波を見ると、加速度が大きく出ている南側の擁壁の変状が認められていることを考慮すると最大加速度は260gal程度になる。
 - 工法の検討について、次の点を考慮すること。
 - 地下水位を下げるという方向性で良い
 - 工法は、さらに詳細な検討が必要、前提としてエリアの選定も重要
 - ドレーン管案について、地下水位低下影響範囲をチェックし、立坑同士の間隔を検討すること

- ◆ 今後、対策エリアの精査を次の条件下で行っていくこと。
 - 液状化被害のある範囲
 - 液状化被害の可能性がCの範囲
 - 対策工施工可能範囲
 - 地下水位低下による有害な沈下の大きい範囲を除外（今後の検討）
 - 対策効果が得られない範囲を除外
 - その他支障のある区域を除外

- 施工方法の検討（ドレーン管の設置深さ、遮水矢板の必要性）を次のように検討すること。
 - 理論式による影響範囲の算定
 - 遮水矢板の必要性を検討するための海水影響の確認（地下水成分分析）
 - 上庄川矢板護岸形式の確認

以上